

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗戒行寺住職

星 弘道さん

第41回

私は宇都宮の商人の家に育ちました。高校3年のとき、この戒行寺の住職が亡くなり、縁戚にあたる私が寺に入ることに。それまで建築関係の道に進みたくて理工系の勉強ばかりしていましたが、急きよ文科系に切り替えて、立正大学仏教学部に進みました。

私の祖母は日蓮宗の熱心な信徒で、その祖母に一番かわいがられていたのが私。目に見えないところで、そんな仏縁もあったのかなと感じます。そして1965年に住職になりました。私は20歳、大学2年生のときでした。

大学で仏教の勉強をし、僧侶の師匠のもとで修行しながら、住職として寺のことも行っていました。でも、当時の私はあまりにも字が下手だった。お位牌など、仏様に差し上げる文字としては、あまりにもお粗末だったのです。

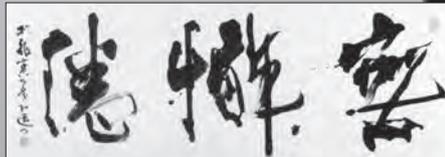
そんなとき、日展に入選するような書道上手の先輩僧に書道を教えてもらえらるることになりました。文字はとにかく書かなければうまくなりません。ひたすら習練あるのみ。必死になって書道に没頭しているうちに、いつの間にか書家になつていました。

中国の古い歴史書『隋書』には、「今与えられた環境の中で必死に努力をすれば、必ず結果はついてくる」と記されています。まさにそのとおり。これは書道だけでなく、生活でも仕事でも、どんなことにも当てはまることです。

字が上達するポイントはい
い手本を真似して書くこと

私は、書道＝手書きというのは人間の本能ではないかと思っています。小さな子どもに筆を持たせると、喜んで落書きするでしょう。「書く」ということに興味があるのです。筆先の微妙な感触は、脳によく働きます。書道は子どもの情緒を育むのにも最適なのです。

大人でも「字が上手に書けない」と悩んでいる人は多いかもしれませんが、そんなときはまず、真



現人作
上代展」に出展したな
「常に怠けるな」
の意味を大きな書に
「倦」を大きな書に
左「境内には鬼知ら
平「犯科帳」で知ら
れる長谷川平
の供養碑がある。



似をしてみましよう。学ぶ「真似ぶ」です。「こんなふうには書きたい」と思うものを手本に、真似して同じように書く。そして何度も練習するのです。そのうちだんだん応用がきくようになり、自分の字が書けるようになります。

書を通して、ものを見る
目を養うことができます

書道はやればやっただけ、ものを見る目が向上します。自分が努力をすれば、ものの価値を判断できる目が養われるのです。文化的なものへの興味が高まる。美しいものを見たときに、より奥深く味わえる。食べて寝て生きていくだけではない、豊かな人生がそこにはあると思います。

若いころ悪筆だった私が書を教える立場となり、さまざまな賞をいただいたり、「現代書道二十人展」に選ばれるようになりまし。それでも書には「もうこれいい」という終わりはありません。私にとつては生涯、求めていくものなのだと思います。

今の環境の中で努力をすれば
必ず結果はついてきます

ほし・こうどう 1944年生まれ、栃木県出身。宇都宮の砂糖問屋の次男に生まれる。高校卒業後、立正大学仏教学部に進学。大学在学中の1965年、戒行寺の住職となる。卒業後は書家の故・浅香鉄心氏に師事し、日展入選などを経て書家に。2010年には日展で「文部科学大臣賞」を受賞。同年より大東文化大学書道学科の特任教授も務める。戒行寺：東京都新宿区須賀町9-3